【授業科目】生理機能検査学実習Ⅲ　Practice of Clinical Physiology Ⅲ

担 当 教 員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
榎本 喜彦、金田 泰代	3 年次 前 期	必修	1	30	実習	あり	巻末 掲載	可

授業概要 （内容と進め方） 及び課題に対する ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	授業概要／画像検査学および生理機能検査学Ⅰの講義、生理機能検査学実習Ⅰ，Ⅱの実習によって培った知識、技術をもとに、超音波検査装置を用いた各種検査手法の習熟　および得られた検査結果の評価について学修させる。生理機能検査においては、患者の協力が不可欠である。臨床検査技師の技量が結果を左右する重要な因子になる生理機能検査学実習Ⅲでは超音波・画像検査、熱画像検査を中心に、正確な画像測定に不可欠な接遇や掛け声の方法について学修させる。実習の中で測定者役と患者役の両者を体験し、どのように声をかけると良いかなど、患者の気持ちを理解し思いやりの心を育むことも学修させる。また、直腸肛門機能検査の実習も行う。さらに、手術室業務への対応も鑑み、感染予防としての手洗い法やガウンテクニックも修得させる。 課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸｸ方法／提出された課題やテストに対しての総評コメントを掲示にて公開する。
実務経験に関する 授業内容	臨床検査技師として臨床経験を持つ教員が、検査に必要な手技および知識を習得するための実践的な実習を行う。得られた検査結果を判読し検査結果の評価方法も行う。
授業の位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー①「臨床検査の専門性と責務を自覚するとともに、地域に住むあらゆる健康レベルの人々に専門的知識と技術に基づき臨床検査を実践できる。」の達成に寄与している。
到達目標 （履修者が到達 すべき目標）	①超音波検査の原理が説明できる。 ②超音波検査により画像の抽出ができ、特徴や状態が説明できる。 ③熱画像検査時の患者への対応法と意義が説明できる。 ④直腸肛門機能検査の方法を説明できる。
時間外学習に必要な 学修内容および 学習上の助言	講義で学んだことの復習をしておくこと（各30分）。自身が測定を行わない際にも手技や技術及び接遇をしっかり観察すること。自分が実技を行う際のシミュレーションをしておくことが重要である。 ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位１５回科目の場合：予習+復習４時間／1回）（１単位１５回科目の場合：予習+復習1時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。
授業計画	第 1 回　超音波検査の基礎 第 2 回　超音波検査の原理と測定法 第 3 回　超音波検査の画像の解析法 第 4 回　ドプラ法検査の原理および測定 第 5 回　心臓超音波法による測定 第 6 回　心臓超音波検査の画像解析 第 7 回　心臓超音波検査画像の解析法まとめ 第 8 回　腹部超音波法による測定 第 9 回　腹部超音波検査の画像解析 第 10 回　腹部超音波検査画像の解析法まとめ 第 11 回　体表超音波法による測定 第 12 回　体表超音波検査の画像解析 第 13 回　熱画像検査法と測定意義 第 14 回　直腸肛門機能検査（検体採取法を含む） 第 15 回　清潔区域業務実習 榎本、金田
評価方法 評価基準	成績は以下の評点配分によって総合的に判断する。 単元ごとのレポート　40%、実技試験 30%、定期試験　30%。
教科書	実習書をPDF化したファイルと、プリントを配付します。
参考書等	最新臨床検査学講座「生理機能検査学」　東條尚子、川良徳弘著（医歯薬出版株式会社）
学生への メッセージ	生理機能検査学Ⅲで習得すべき手技・技術には接遇が重要な位置を占める。その適切な方法についても習得してほしい。